



大阪大大学院医学系研究科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 猪原秀典教授

70歳 まず検査

年齢とともに、早口が聞き取れない、雑音があると聞き取れない、音がどこから来るのかわからないといったことが起こってきます。ただ、多くの人は難聴に気づいていません。75歳以上では70%が難聴と言われているが、自覚しているのは35%ほど。実際、ご自身の身長・体重・血圧や視力は分かっている方も、聴力を把握している方はほとんどいないのではないのでしょうか。家族から「テレビ

のボリュームが大い」などと指摘されて初めて耳鼻咽喉科を受診される方が多い印象です。近年、難聴は認知症の危険因子であることが分かっています。また、難聴に対して補聴器など適切な対応をすることで、認知症の一部は予防できると考えられています。海外の論文によると、聴覚が正常な人と比べ、難聴で補聴器を使っている人は1.06倍、補聴器を使っていない人は1.6倍の認知症リスクがあることが分かりました。補聴器を使うことで認知機能の低下が緩やかになった事例もあります。まずは聞こえが悪いことを自覚して耳鼻咽喉科を受診し、聞こえにくくなったタイミングで補聴器を使うことが大切です。とはいえ、日本では補聴器に満足している人が2人に1人しかいない状況です。購入したものの聞こえないからと使わなくなるケースが多いです。補聴器の



関西医大耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 日高浩史准教授

治療法も進化

これまで鼓膜の穴を塞ぐ治療は、局所麻酔や全身麻酔で耳の後ろを切って鼓膜の代わりとなる筋膜などの組織を採取し、移植する手術が主流でした。通常数日の入院が必要ですが、鼓膜再生療法では細胞が鼓膜をつくれるよう、細胞の足場に増殖を促す薬剤を染み込ませたセラチンポンジを用いて穴を塞ぎ、医療用ので表面をカバー

ります。局所麻酔で1時間ほどで終わります。これまでに86例の手術を行いました。約85%で鼓膜が塞がり、従来の手術と同様に聴力が改善しました。今後有益な治療法になるでしょう。

補聴器を装着する際には、難聴のタイプに合わせて認定補聴器技術者に調整してもらった上で、聴力のトレーニングを始めることも大切です。難聴によって脳が変化しているため、必要な音量を最初から入れると不快感が強いです。1カ月かけて少しずつ音を大きくし、正常な聞こえの脳に近づけることで、言葉の聞き取りが改善することもあるのです。補聴器は医療的リハビリテーションと考えてください。

補聴器の効果が乏しい方には人工内耳があります。耳の後ろを切開し、骨を削って細かい電極を埋め込みます。補聴器で全く聞こえなかった人が2、3歳の距離だと普通に会話ができるようになることも少なくありません。

難聴と認知症―聴こえ8030運動―

「難聴は認知症の危険因子であることが分かっています。また、難聴に対して補聴器など適切な対応をすることで、認知症の一部は予防できると考えられています。海外の論文によると、聴覚が正常な人と比べ、難聴で補聴器を使っている人は1.06倍、補聴器を使っていない人は1.6倍の認知症リスクがあることが分かりました。補聴器を使うことで認知機能の低下が緩やかになった事例もあります。まずは聞こえが悪いことを自覚して耳鼻咽喉科を受診し、聞こえにくくなったタイミングで補聴器を使うことが大切です。とはいえ、日本では補聴器に満足している人が2人に1人しかいない状況です。購入したものの聞こえないからと使わなくなるケースが多いです。補聴器の

選定や調整ができる認定補聴器技術者がいる専門店で購入し、自分の聴力に合わせてもらうことが大事です。難聴による世界の経済的損失額は150兆円と言われています。難聴がある人の死亡率は難聴がない人よりも高いという報告もあります。難聴の予防としては、大きな音をヘッドフォンで聞かないことが重要。言い換えると若者の難聴が進むことが危惧されています。残念ながら、日本では行政や医療機関による難聴の人へのサポート体制が十分に整っていないと言えま

せん。補聴器は保険診療ではないこともあって普及が進まず、医師が補聴器をつけるようアドバイスできないケースもあります。日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では80歳で30デシベル(ささやき声の程度)の聴力維持を呼びかける「聴こえ8030運動」を展開しています。70歳になったらまず1回は検査を受けてほしいですね。

「難聴は放っておくと、生命予後に影響することが分かっています。米国の調査によると、聴力が正常な人に比べて難聴の人は生命予後が悪く、さらに補聴器を使用する人よりも使用しない人のほうが予後が悪いことが分かりました。西欧では8割が補聴器の購入にあたって耳鼻咽喉科を受診する一方、日本では受診する人が半数に満たない状況です。補聴器をつ

ける前に耳鼻咽喉科を受診し、まずは改善できる耳疾患がないかを調べてほしいですね。耳の症状で来られた人には、聴覚検査のほか、鼓膜の診察をし、慢性中耳炎になっていないか、耳だれが出ていないか、鼓膜に穴が空いていないかを見ます。近年、慢性中耳炎などで穴が空いた鼓膜を幹細胞を利用して再生させる新しい治療法「鼓膜再生療法」が日本で開発され、3年前から保険適用になっていま

す。これまで鼓膜の穴を塞ぐ治療は、局所麻酔や全身麻酔で耳の後ろを切って鼓膜の代わりとなる筋膜などの組織を採取し、移植する手術が主流でした。通常数日の入院が必要ですが、鼓膜再生療法では細胞が鼓膜をつくれるよう、細胞の足場に増殖を促す薬剤を染み込ませたセラチンポンジを用いて穴を塞ぎ、医療用ので表面をカバー

ります。局所麻酔で1時間ほどで終わります。これまでに86例の手術を行いました。約85%で鼓膜が塞がり、従来の手術と同様に聴力が改善しました。今後有益な治療法になるでしょう。

補聴器を装着する際には、難聴のタイプに合わせて認定補聴器技術者に調整してもらった上で、聴力のトレーニングを始めることも大切です。難聴によって脳が変化しているため、必要な音量を最初から入れると不快感が強いです。1カ月かけて少しずつ音を大きくし、正常な聞こえの脳に近づけることで、言葉の聞き取りが改善することもあるのです。補聴器は医療的リハビリテーションと考えてください。

補聴器の効果が乏しい方には人工内耳があります。耳の後ろを切開し、骨を削って細かい電極を埋め込みます。補聴器で全く聞こえなかった人が2、3歳の距離だと普通に会話ができるようになることも少なくありません。

きっかけづくりに

大阪府耳鼻咽喉科医会 有賀秀治会長

コミュニケーションには様々な手段がありますが、病気や加齢によって聴力が落ちていくことがままあります。近年、難聴が認知症の発症に影響することも分かってきました。耳の日セミナーが皆さまが耳の健康について考えるきっかけになれば嬉しいです。

大阪府耳鼻咽喉科医会は70年以上の歴史があり約700人から構成される組織です。大阪市西区の市中央急病診療所で会員が輪番制で勤務し、365日受診できる体制を整えています。平日は午後10時～翌午前0時半、土曜日は午後3時～午後9時半、日曜祝日は午前10時～午後9時半です。緊急時にはぜひご利用ください。



第28回耳の日セミナー

「耳の日」の3月29日、大阪府中央区で「第28回耳の日セミナー」の健康を考える「耳の日」が開かれた。大阪府耳鼻咽喉科医会の須波浩之理事が「聞こえの仕組み」と題して講演。また、大阪大大学院の猪原秀典教授が「難聴と認知症―聴こえ8030運動―」について話し、関西医大の日高浩史准教授も「快適な補聴器ライフを送るために」耳鼻咽喉科医による診断、処置、手術」をテーマに講演に立った。

【谷田朋美】

耳の健康を考える



大阪府耳鼻咽喉科医会 須波浩之理事

聞こえの仕組み

耳には音を聞く、体のバランスを取るという二つの働きがあります。音の伝わり方には、気導と骨導という二つのルートがあります。気導は音の振動を鼓膜から耳小骨に伝え、蝸牛で振動を電気信号に変えて聴神経から脳に伝えます。骨導は、音の振動を蝸牛から直接伝える電気信号に変えて脳に伝えるルートです。

難聴が疑われる場合、さまざまな聴力検査で障害のある部位や原因疾患を特定します。日常の音は、低周波から高周波まで組み合わせ

異変 早めの受診を

さってできているため、まずはどの周波の音がどれだけ聞こえるのかを検査します。また、音だけでなく、数字や仮名を聞いて分かるか、聞き違いないかを調べます。これらの検査は聞こえがどうかの意思表示が必要なため、幼児や認知症の高齢者には音を入れて反応を診る検査などを実施します。

難聴には、外耳や中耳が正常に機能しなくなる伝音性難聴、内耳や中枢の神経の障害で起こる感音性難聴、伝音性難聴と感音性難聴の両方の機能障害が合わさった混合性難聴の三つの種類があります。

伝音性難聴は耳あかがたまる、鼓膜に穴が空く、急性中耳炎や滲出性中耳炎―など主に中耳の疾患で見られます。気導に異常がありますが、骨導はよく聞こえます。耳の穴は完全に塞いでもある程度は聞こえます。外耳や中耳を治療することで聴力が回復する場合があります。音を大きくすれば聞こえるため補聴器などを使えば音を聞くこともできます。

感音性難聴は加齢が原因の老人性難聴、騒音性難聴や突発性難聴、メニエル病で見られます。高音域が聞こえにくく、複数の音を一度に聞いた時に特定の音を聞き分けることが難しくなります。発症して1カ月以上過ぎると回復困難なため早期治療が重要です。

混合性難聴は伝音性難聴と感音性難聴の両方の機能障害が合わさった難聴です。どちらの度合いが強いかは人によって異なります。

人間の聴力は40代を境に高い音からだんだん聞こえなくなってきました。聞き取りが悪くなってきたと感じたら、耳鼻咽喉科を受診してほしいですね。



主催 一般社団法人大阪府耳鼻咽喉科医会、一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会大阪府地方部会、毎日新聞社
後援 大阪府、大阪市、大阪府医師会
協賛 トーシン補聴器センター